

公立大学法人 大分県立芸術文化短期大学

令和3事業年度の業務実績に関する

項目別評価（大項目評価）及び全体評価

令和4年7月

大分県地方独立行政法人評価委員会

令和3事業年度の業務実績評価（大項目評価）

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	---------------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、25項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②全学科横断型の「アートマネジメントプログラム」が開講4年目を迎え、3科目において全学科から172名が受講し、令和3年度に終了した36名に認定証を授与したこと。
- ③ガイダンスや模擬面接、ハローワークへの同行などにきめ細かな支援を行った結果、令和3年度の就職率は99.2%、進学率は100%となり、それぞれ目標の90%を大きく上回っていること。
- ④県内各地域、各種団体、企業との協働による制作・発表活動、地域支援活動などを実施するとともに、株式会社サンリオエンターテイメントと連携したハーモニーランド30周年記念グッズの制作や日田地域の素材や産業を生かした提案的デザイン開発、若宮八幡社の絵馬の制作・奉納及び拝殿での金管アンサンブル演奏など、地域に開かれた大学として地域社会へ貢献する取組を進めていること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 教育の内容及び到達目標
- ・芸術系と人文系の学科を併設する本学の特色を活かした全学科横断型「アートマネジメントプログラム」は4年目を迎え、3科目において全学科から延べ172名が受講し、令和3年度に終了した36名に認定証を授与した。
 - ・美術科デザイン専攻においては、アート思考への需要の高まりに応じて新たにグラフィックアート分野の教員の公募を行い、採用の内定をした。
 - ・国際総合学科においては、成績の評価項目と基準のバラツキの改善・解消に向け、学科会議の研修を通して問題意識を共有し、改善に向けた課題を抽出した。
 - ・情報コミュニケーション学科では、情報メディアコースの科目群を整理し、「メディア史」を「メディア論」として概論に近づける変更をした。
- 教育の実施体制
- ・美術科では、関係機関と連携し、日田地域の素材や産業を生かした提案的デザイン開発を

行うなど、デザインの専門性を活かした取組を展開した。

- ・国際総合学科では、オンライン授業に対応して、双方向対話型の授業のため「C-Learning」と「Zoom」システムを活用し、電子化した授業資料の配付（配信）や就職支援情報の提供を実施した。

○学生への支援

- ・ガイダンスや模擬面接、ハローワークへの同行などにきめ細かな支援を行った結果、令和3年度の就職率は99.2%、進学率は100%となり、それぞれ目標の90%を大きく上回った。

○地域社会への貢献

- ・毎年県民向けに開催しているオープンカレッジ及び公開授業については、新型コロナウイルス感染防止の観点からオンライン上で実施可能な講座のみ計画し、「YouTuber養成講座」に延べ11名が受講した。
- ・県内各地域、各種団体、企業との協働による制作・発表活動、地域支援活動などを実施した。（ハーモニーランド30周年の株式会社サンリオエンターテイメントと連携した記念グッズの制作、日田地域の素材や産業を生かした提案的デザイン開発、若宮八幡社の絵馬の制作・奉納及び拝殿での金管アンサンブル演奏など）

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
教 育	12			3	9
研 究	6			2	4
社会貢献	6			3	3
その他の目標	1			1	
合 計	25			9	16

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

- ※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- アートマネジメントプログラムは本学の目玉施策である。4年目を迎え受講生は前年の270名に及ばないものの172名が参加していることは高く評価できる。
- 研究費特別枠は前年実績を下回った(9件/1,752千円⇒4件/930千円)ため、引き続きの注力をお願いしたい。
- 地域への貢献は今年度も大きいといえる。
- 令和3年度の就職内定率99.2%、進学合格率100%は大いに評価できる。県内の就職率を高めていただきたい。
- 第2期に改組・改編した学科・コース並びに検討に着手したコース改編に関する検証や、地域課題や時代の潮流の変化に適切に対応するためのカリキュラムやコースのあり方等に関する検討がなされることはきわめて重要な内部評価である。その際には、ややもすると縦割りになりがちな学科・コースを横断的に俯瞰する全学的なグランドデザインや将来構想が欠かせない。そのために必要な教員個々の業績評価や大学全体としてのエビデンス(根拠資料)作成や公開化・共有化=「見える化」が必要である。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、7項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②学内会議や委員会の活性化を通じマネジメント強化を図るとともに、教育目的が達成されるよう、教職員の人材育成と計画的な教員採用について検討を行ったこと。
- ③予算と人的資源を最大限に生かして大学経営を行うため、業務の選択と集中の観点から、大学の魅力アップ、社会貢献、進路支援と学生確保、有為な人材確保の4項目に予算と人的資源を集中させ重点的に事業を実施したこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

○運営体制

- ・理事長兼学長が参画する幹部会議を定期的で開催したほか、学科長や専門委員長との協議を行い、迅速かつ機動的な意思決定を行った。新型コロナウイルス対応では、危機管理対策本部体制のもと、組織的な対応と情報共有を行った。
- ・情報セキュリティ研修を行うなど法令遵守と内部統制を徹底した。

○人事の適正化

- ・教員の定年退職等に伴い、令和3年9月に1名（国際総合学科1名）を採用し、令和4年4月からの3名の教員採用（美術科1名、国際総合学科1名、情報コミュニケーション学科1名）について公募を行い、優秀な人材を確保した。

○業務の選択と集中

- ・予算と人的資源を最大限に生かして大学経営を行うため、業務の選択と集中の観点から、①大学の魅力アップ、②社会貢献、③進路支援と学生確保、④有為な人材確保の4項目に予算と人的資源を集中させ重点的に事業を実施した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
運営体制	3			3	
人事の適正化	3			2	1
業務の選択と集 中	1				1
合 計	7			5	2

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 理事長・学長のリーダーシップのもと、しっかりと業務運営をされている。
- 教員5名を採用し人事の適正化を図ったことは評価できる。今後の業務運営に効果が上がることを期待する。
- 本学では、前理事長・学長から現理事長・学長へ交替がなされたものの、いずれも適切なリーダーシップのもと、幹部会議や学内委員会の活性化等によりマネジメント機能と教職員の連携が強化されていると理解でき、大学を取り巻く環境変化への戦略的・機動的な対応が適切に図られてきていると評価できる。一方で、令和2年度からの新型コロナウイルス感染症防止対策では、随時、危機管理対策本部会議及び幹事会を開催し適切に対応したと記されたものの、本学における危機管理対策の全貌を把握するにはその詳細が伝えられておらず、抽象的な説明に終始している。危機管理対策の適切な評価に立ち、今後への持続的発展が達成されるかどうかを見極めていくには、より具体的な実施状況を示していただきたい。

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、8項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②キャンパス整備工事の中で、省エネ効果の高い機器を導入し経費抑制を推進するとともに、夏期休業日を設定することで高熱水費の削減を行ったこと。
- ③公開講座は新型コロナウイルス感染防止のため開催規模の縮小を余儀なくされた一方、科学研究費の獲得に向けて、研究費特別枠の活用や、研究者と事務職員との連携体制を整えるなど組織的に対応したこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

○事務等の効率化及び経費の抑制

- ・教授会や関係委員会を通じて、年度計画及び中期目標期間の業務実績など大学運営に関する情報を教職員に提供し、経費削減を意識付けるとともに、節電方針等を説明・周知し、夏季軽装運動、冬季ウォームビズ、お盆期間の大学閉鎖など節電に努めた。
- ・電力料金の節減のため、パッケージエアコンの温度や電源切断時間の自動設定などの取組を行った。

○自己収入及び外部資金の獲得

- ・新型コロナウイルス感染防止対策を実施しながら、音楽ホール等の施設について35申請に対して貸付を行った。
- ・研究費特別枠制度を周知・募集し、科研費等外部資金獲得のための事前研究の推進に努めた。研究費特別枠の認定時期を早めるとともに、若手教員への補助率を拡充する見直しにより、若手教員が利用しやすい制度に変更した。

○資産の適正管理及び有効活用

- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、可能なかぎり施設貸出等に応じるとともに、グラウンドについては、毎週、地域住民のグラウンドゴルフに開放した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
事務効率化 ・経費抑制	2			2	
自己収入・外部 研究資金の獲得	3			2	1
資産の適正管 理・有効活用	3			3	
合 計	8			7	1

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 経費抑制について鋭意努力されている点は評価できる。
- 一方、研究費特別枠は前年実績を下回った（9件/1,752千円⇒4件/930千円）。引き続きのサポート体制の充実をお願いしたい。
- 光熱水費の節減等は数値で示してもらえるとわかりやすい。
- 国立大学法人が毎年、運営費交付金の1%減額を強いられる中、科学研究費助成事業等の外部競争資金や受託事業の獲得へ奮迅せざるをえない運営環境に比べ、本学の科学研究費助成事業等への応募申請・獲得取り組みや受託研究などの外部資金獲得を通じた自己資金創出に関する状況は、いまだ恵まれた環境にあると言えるかもしれないが、遅かれ早かれ、そうした自己資金創出に関する評価が個々の教員業績評価へも大きな影響を与えることが予測される中、科学研究費助成事業等に関する情報提供や申請に当たっての支援などを組織的な取り組みとして進めていくことは重要である。そこから今後へ向け外部競争資金や受託事業の獲得に努めていただきたい。

IV 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、3項目のすべてがⅢ（順調に実施している）であること。
- ②大学の取組や成果、課題等を確認し、令和4年度の大学基準協会による認証評価に向けて、自己点検・評価報告書を作成したこと。
- ③マスメディア等の様々な媒体を活用し、積極的な広報を展開したこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 自己点検及び自己評価の充実
- ・令和元年度に実施した自己点検・自己評価の結果を踏まえながら、令和4年度に受審予定の認証評価機関による認証評価に向けて、点検・評価報告書を作成した。
- 情報公開や情報発信の推進
- ・広報誌を年4回発行したほか、県政記者クラブ等を通じた報道各社への情報提供、公式SNSとの連携により情報発信した。
 - ・教育・研究の成果を広く社会に還元する芸短フェスタ2021を開催し、演奏会や展示会など23イベントに多くの県民が参加した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
自己点検 ・自己評価	1			1	
情報公開 ・情報発信	2			2	
合計	3			3	

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

- ※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- ホームページの更新等によりアクセス数 340,156 回(前年比+9.7%)と過去 3 年間の年間最高アクセス数を上回ったことは評価できる。今後の効果にも期待する。
- 根拠資料(エビデンス)の提示が十分とは言えず、自己点検・評価の全貌を把握するにはその詳細が情報として十分には伝えられておらず、抽象的な説明に終始している。

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、6項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②キャンパス整備事業で整備した施設・設備について、各種維持管理契約を締結し、委託業者とも連携しながら、適正に管理・運営したこと。
- ③オンライン授業やオンライン学内会議について、セキュリティ上の安全性を確保した上で、スムーズな運用を行うとともに、学生及び職員に対し、情報セキュリティ研修を開催し、意識の底上げを図ったこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 施設・設備の整備と活用
 - ・キャンパス整備事業で整備した施設・設備について、各種維持管理契約を締結し、委託業者とも連携しながら、適正に管理・運営した。
 - ・コロナ禍で増加するオンライン業務や授業に対応し、音楽ホール棟のWi-Fi環境の充実を図るとともに、電子黒板や粘土練り機を導入するなど、新たな教育需要に対応した。
- 大学の安全管理
 - ・全学を挙げて新型コロナ対応に最優先で取組み、感染防止に努めた。
 - ・「防災・業務継続計画（BCP）」に基づき、緊急メールの通信訓練と地震や火災を想定した防災訓練を実施した。
- 情報セキュリティの確保
 - ・オンライン授業やオンライン学内会議のツールとして導入した「C-Leaning」及び「Zoom」について、セキュリティ上の安全性を確保した上で、学生及び職員への研修・振り返りを重ね、スムーズな運用を行っている。また、教職員全員を対象として情報セキュリティ研修を開催した。
- 人権尊重の推進
 - ・学生に対しては、人権に係る授業科目を設定し、外部講師による講演を行うなど、人権に関する内容を深めた。また、人権相談窓口を知らせるチラシを作成し、学内に掲示するとともに、メールによる周知を行った。

・全教職員を対象とした人権研修会を開催し特にハラスメントについての理解を深めた。また、学外で開催された研修会等へ積極的に参加し、情報共有、人権委員での意見交換を行った。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
施設・設備の 整備と活用	2			1	1
安全管理	1				1
情報セキュリテ ィ	1			1	
人権尊重の推進	2			2	
合計	6			4	2

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

○今後のキャンパスの活用に期待する。

○本学では教育機能の充実強化や学修環境の改善を図るための施設リニューアルが見事に具現化してきたが、さらに優れた教育環境創出へ向け、計画的に必要な施設・設備を整備するとともに修繕を行う不断の努力は高く評価できる。そこからオンライン授業に必要な設備を設置してきた。さらに令和2年度からの新型コロナウイルス感染防止対策のため、さらなるオンライン授業に必要な設備を設置するとともに、ニーズに応じた施設改修を行い、授業において活用してきたことは高く評価できる。

2 全体評価

評価結果と判断理由

評価結果

全体として年度計画を順調に実施している。

判断理由

- ① 大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」についてはS評価（特筆すべき進行状況）であり、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「Ⅴその他業務運営に関する重要目標」についてはいずれの項目もA評価（計画どおり進んでいる）であること。
- ② 「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」に関して、全学科横断型の「アートマネジメントプログラム」が開講4年目を迎え、全学科から172名が受講し、令和3年度に修了した36名が認定証を授与されるなど、新たな学修の展開を引き続き推進するとともに、就職・進学それぞれに対応した進路支援プログラムと進路支援室と各学科の連携によるきめ細かな面接・相談等を行った結果、就職率は99.2%、進学率は100%と、昨年度を上回る水準を維持していること。また、県内各地域、各種団体、企業との協働による制作・発表活動、地域支援活動などを実施するとともに、株式会社サンリオエンターテイメントと連携したハーモニーランド30周年記念グッズの制作や日田地域の素材や産業を生かした提案的デザイン開発、若宮八幡社の絵馬の制作・奉納及び拝殿での金管アンサンブル演奏など、地域に開かれた大学として地域社会へ貢献する取組を進めていること。
- ③ 新型コロナの影響を受けながらも、全学を挙げて新型コロナ対応に最優先で取り組むことで感染防止に努めており、学内においては、理事長のもと組織的な対応を行っていること。セキュリティ上の安全を確保した上で、オンライン授業やオンライン学内会議のスムーズな運用を継続するとともに、県民向けのオープンカレッジをオンラインで開催するなど、臨機応変の対応が取られていること。また、感染症対策を講じながら、新施設含め可能な限り施設貸出等に応じていること。

<委員会からのコメント>

- 全体として、年度計画は順調に実施されていると評価する。
- コロナ禍の制約ある環境下で十分な実績を挙げている。
- アートマネジメントプログラムは本学の目玉施策。4年目を迎え、実績も安定的に推移。更なるレベルアップに努めていただきたい。
- 就職率・進学率ともに極めて高水準で、昨年比も改善されている。
- 県立大学として地域への貢献もしっかりとなされており、本学のプレゼンスも高まっていると評価できる。
- 創立60周年を迎えキャンパス整備も完成され、これから一層大学の魅力アップに取り組んでほしい。
- 第2期に改組・改編した学科・コース並びに検討に着手したコース改編に関する検証や、地域課題や時代の潮流の変化に適切に対応するためのカリキュラムやコースのあり方等に関する検討がなされることはきわめて重要な内部評価である。その際には、ややもすると縦割りになりがちな学科・コースを横断的に俯瞰する全学的なグランドデザインや将来構想が欠かせない。そのために教員個々の業績評価や大学全体としてのエビデンス（根拠資料）作成や公開化・共有化＝「見える化」が必要である。そのうえで令和5年度までの中期計画の達成へ鋭意努めていただきたい。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等 の質の向上	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
II 業務運営の 改善及び 効率化	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
III 財務内容の 改善	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
IV 自己点検 ・評価及び 情報提供	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
V その他業務 運営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり